

# 第3海兵遠征軍 (MEF)

コマンド・ブリーフ  
2009年10月



UNCLASSIFIED



# 第3海兵遠征軍作戦地域

米国本土から遠すぎる距離

- 空路で24時間
- 海路で数週間

潜在的フラッシュポイント：

- 世界の自然災害の60%
- 地域的國家不安定
- 過激な活動家集団

Okinawa

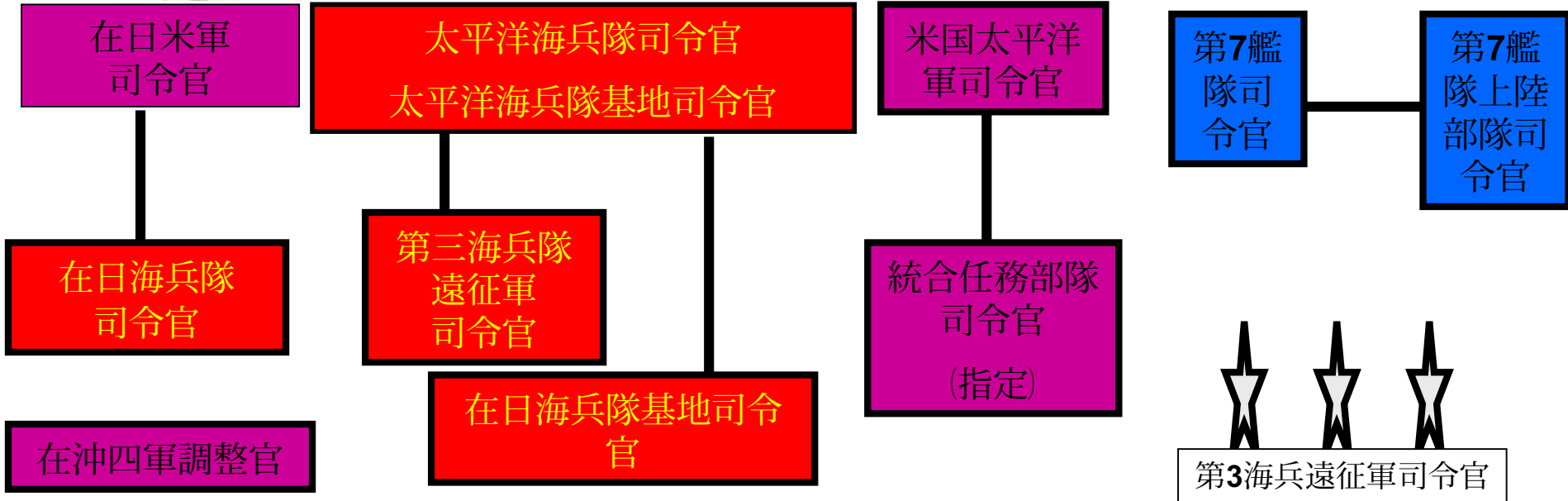
Hawaii

Guam

地域的特徴：

- 世界の人口の60%
- 43カ国
- 最大のイスラム国家（インドネシア）
- 最大の民主主義国家（インド）
- 共産主義国家（中国）
- 世界有数の軍事力が集中（中国、インド、北朝鮮、韓国、ロシア、ベトナム）
- 米国の主要な防衛協定7つのうち5つ
- 散在する沿岸地域（フィリピンの7000の島とインドネシアの1万7500の島）
- 戦略的交通路、要衝（マラッカ、スンダ、ロンボク海峡）

# 指揮關係





# 第3海兵遠征軍及び海兵隊基地





# 第3海兵遠征軍展開概要

海兵隊員及び水兵 2万5000人

キャンプ・ムジュク

キャンプ富士

海兵航空群  
戦闘役務支援部隊分遣隊

海兵隊 岩国航空基地

Okinawa

Hawaii

海兵隊基地 キャンプバトラー  
海兵隊 普天間航空基地  
ジャングル戦闘訓練センター (北部訓練場)

海兵隊基地 カネオヘ・ベイ

第3海兵遠征軍司令部  
(第3海兵遠征旅団司令部)  
第3海兵遠征軍司令部群  
第3海兵師団  
第1海兵航空団  
第3海兵兵站群  
第31海兵遠征隊

歩兵連隊  
海兵航空群  
戦闘役務支援群

- > 1万6000 沖縄の6キャンプ
- > 3000 日本本土
- > 5000 ハワイ

# 日米合意実施計画(AIP)



「部隊配備計画 (UDP)」部隊は、「イラクの自由作戦 (OIF)」以前の配備地・二次的所属基地

合計:約2万  
7300人

**岩国**

- 第12海兵航空群 (固定翼)
- KC-130 中隊
- 基地支援 約3200 (3000)
- 第5空母航空団 約2000

**ハワイ**

- 太平洋海兵隊基地司令部
- 第3海兵連隊 (歩兵)
- 第24海兵航空群 (回転翼)
- 戦闘兵站連隊
- 基地支援 約5,600 (5,400)

**沖縄**

- 第31海兵遠征隊 (司令部司令部部隊)
- 第4海兵連隊 (4個歩兵大隊)
- 第36海兵航空群 (回転翼)
- 戦闘兵站連隊
- 基地支援

約10,200 (9,800)

**グアム**

- 第3海兵遠征軍司令部部隊
- 第3海兵師団司令部
- 第12海兵連隊 (砲兵)
- 第1海兵航空団司令部
- 重ヘリ中隊(D)
- 第3海兵兵站群司令部
- 野営地支援

約8300 (7900)

2009会計年度 (配置予定図)



# 日米合意実施計画(AIP)

UDP部隊は、「イラクの自由作戦(OIF)」以前の配備地・二次的所属基地

合計:約2万  
7300人

## 岩国

- 第12海兵航空群 (固定翼)
- KC-130 中隊
- 基地支援  
約3200 (3000)
- 第5空母航空団  
約2000

## ハワイ

- 太平洋海兵隊基地司令部
- 第3海兵連隊 (歩兵)
- 第24海兵航空群 (回転翼)
- 戦闘兵站連隊
- 基地支援  
約5600 (5400)

## 沖縄

- 第31海兵遠征隊 (司令部部隊) ???
- 第4海兵連隊 (4個歩兵大隊)
- 第36海兵航空群 (回転翼機) ???
- 戦闘兵站連隊
- 基地支援  
約1万200 (9800) → 実数1,800

## グアム

- 第31海兵遠征部隊 (司令部)
- 第36海兵航空群 (回転翼) [25機]

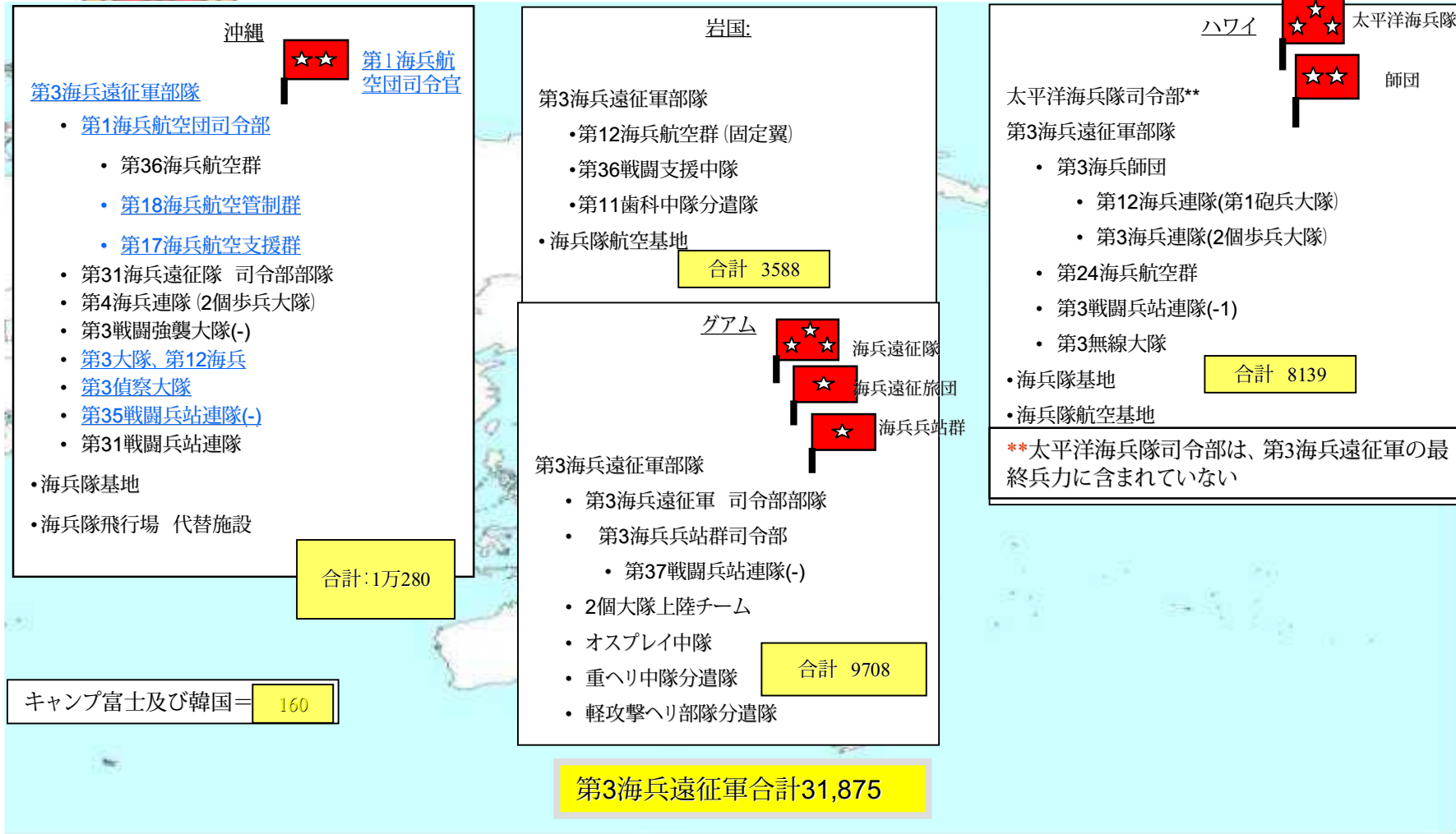
- 歩兵大隊 (800人)
- 迫撃砲兵隊 (150人)
- 航空部隊 (250人)
- その他 (800人)

## グアム

- 第3海兵遠征軍司令部部隊 (3,046人)
- 第3海兵師団司令部 (1,100人)
  - 第12海兵連隊 (砲兵)
- 第1海兵航空団司令部 (1,856人)
  - 重ヘリ中隊(D) [12機]
- 第3海兵兵站群司令部 (2,550人)
- 野営地支援  
**1万600** ー約8,300 (7,900)

2009会計年度 (配置予定図)

# 第3海兵遠征軍の望ましい配置



※青色下線表示の部隊はグアム移転後、再度沖縄に戻ってくることが想定される部隊。【宜野湾市注釈】  
引用: 2008年9月15日米国防総省グアム軍事計画報告書

UNCLASSIFIED FOR LIMITED DISTRIBUTION ONLY

PRE-DECISIONAL/DELIBERATIVE PROCESS





# 第3海兵遠征軍司令部群

海兵隊員及び水兵 2500

第3無線大隊

Okinawa

Hawaii

- 第3海兵遠征軍司令部群
- 第3海兵遠征軍司令部部隊
- 第7通信大隊
- 第3情報大隊
- 第5空海砲擊連絡中隊
- 第3海兵遠征軍特別作戰訓練群
- 第3海兵遠征軍戰術演習統制群



# 第3海兵師団

海兵隊員及び水兵 9250人

UDP配備を除くと6700人

第3海兵連隊

- 3個歩兵大隊

1個 砲兵大隊 (1/12)

戦闘強襲中隊



Okinawa

Hawaii

第3海兵師団司令部

-司令部大隊

- 第4海兵連隊

・司令部のみ

- 第12海兵連隊

・1個砲兵大隊司令部 (3/12)

- 戦闘強襲大隊

- 第3偵察大隊



# 第1海兵航空団



海兵隊員及び水兵 **7280**人

第12海兵航空群 (固定翼)

- 3個 F18ホーネット中隊
- 1個 ハリアー中隊 (MEU = 海兵遠征隊)

Iwakuni

Okinawa

Hawaii

第1海兵航空団

司令部

-第36海兵航空群(回転翼)

- 2個 CH-46E中型ヘリ中隊
- 1個 KC-130空中給油機中隊

-第17海兵航空支援群

-第18海兵航空管制群

第24海兵航空群(回転翼)

- 3個CH-53D中隊





# 第3海兵兵站群

海兵隊員及び水兵 5200

- 第3海兵兵站群
- 37戦闘兵站連隊
- 35戦闘兵站連隊
- 3戦闘兵站連隊
- 9工兵支援大隊
- 31戦闘兵站大隊
- 3医療大隊
- 3歯科大隊

第36戦闘兵站中隊

Iwakuni  
Okinawa

Hawaii

遠征能力に貢献

第3戦闘役務支援群





# 第3海兵遠征旅団



海兵隊員及び海軍  
2500-1万  
7500人



## 部隊\*:

- 地上戦闘部隊
  - 歩兵連隊上陸チーム
- 航空戦闘部隊
  - 混成航空群
- 兵站戦闘部隊
  - 戦闘兵站連隊

•第3海兵遠征司令部部隊に配属の第3海兵遠征旅団スタッフ

•規模調整可能・適応可能の海兵空地任務部隊として海兵遠征軍への拡大可能に

\*海兵遠征軍隷下各司令部から調達

## 戦略的機動性

- 水陸両用輸送
- 海上事前集積中隊
- 戦略航空
- 高速艇



# 第31海兵遠征隊 (MEU)



海兵隊員及  
び水兵 **2200**  
人



- 危機対応戦力
  - 水陸両用即応群 (佐世保) を構成するのは：
    - 第11水陸両用中隊(**PHIBRON 11**)
  - 海兵遠征隊 (沖縄) を構成するのは：
    - 海兵遠征隊司令部部隊
    - 大隊上陸チーム (歩兵大隊 (**Rein**))
    - 混成航空中隊(中ヘリ中隊, 軽攻撃ヘリ部隊, 重ヘリ中隊, 攻撃中隊
- VMA)**
- 戦闘ロジスティック大隊

UNCLASSIFIED

# 高速輸送艦 (HSV)

HSV ウエストパック・エクスプレス



即応パッケージ

-最高速度 33ノット

-航続距離 1240海里 (2282km)

584トン

-海兵隊970人 (122m/トン)

-462m/トンの貨物

C-17 20回分の供給

8機のヘリコプター搭載

MEFの作戦地域に確立された港 20

主要港

-横浜

-浦項

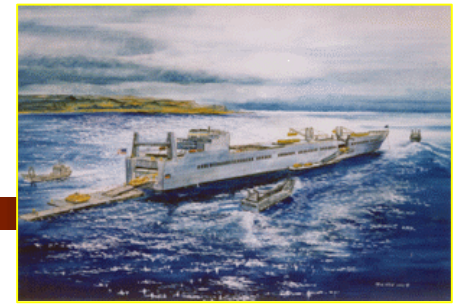
-釜山

-平澤

-スービック湾



# 第3海上事前集積船中隊





## 海外緊急対応作戦



- OIF (イラクの自由作戦)
  - 1個歩兵大隊
  - 1個戦闘工兵小隊
  - EOD(爆発物処理班)分遣隊
- OEF-A (不朽の自由作戦-アフガニスタン)
  - アフガニスタン陸軍配属訓練チーム (ANA ETT)
  - 1個連隊戦闘チーム司令部
  - 1個歩兵大隊
  - 1個CH-53D航空中隊
  - KC-130分遣隊
  - 海兵航空C2・兵站支援中隊
- OEF-H (アフリカの角) : 通信分遣隊
- OEF-P (フィリピン) : 第3無線大隊・第4海兵分遣
- 個々の増強 (IA)
  - 年間合計100人: オフィサー70人/上級下士官30人



# 演習及び訓練



年間70+の演習：



第3海兵遠征軍 (MEF) の訓練は戦域安全保障協力

- キールゾルブ、フォール・イーグル及び ウルチ・フリーダム・ガーディアン(UFG)
- (韓国)
- バリカタン、「水陸両用上陸演習(PHI BLEX)」 (フィリピン)
- コブラ・ゴールド (タイ)
- ターミナル・フューリー (統合任務部隊訓練)
- ヤマサクラ及びフォレスト・ライト (日本)
- タリスマン・セイバー (オーストラリア)
- 「協力海上即応訓練 (CARAT)」 (東南アジア諸国)
- 11MTWS (海兵隊戦術戦シミュレーション) 08年度 (アジア諸国)
- 海兵隊遠征隊 (MEU) パトロール 種々

及び計画会議/サイト調査

遠隔地

ISOSによるところが大きい

ISOSの活用方法に注意

安全保障上の配慮

コミュニケーション計画

UNCLASSIFIED  
人道的援助  
災害救援



2004年12月 - 2005年3月  
JTF-536 (536統合任務部隊) アジア津波救援

2005年10月 - 2006年3月  
パキスタン地震救援

2006年3月 - 4月  
フィリピン土石流救援

2006年5月 - 6月  
インドネシア地震救援

2007年3月  
レガスピ台風救援

2007年4月  
ソロモン諸島津波救援

2007年11月 - 12月  
バングラデシュ・サイクロロン「海の天使  
2」救援作戦

2008年5月 - 6月  
ビルマ 「思いやり対応」作戦

2009年8月  
台湾 台風救援

2009年10月  
フィリピン台風及びインドネシア地震救援



# 質問・討議